



夢見平水芭蕉

私が現在の笹ヶ峰高原の乙見湖休
憩舎のところで食堂を営んでいた時、
山の恵を皆さんに提供して喜んでも
らおうと日々森林に分け入っており
ました。その時はすでに国有林の材
木を伐採し、軌道を使って材木を搬
出していた時代から相当な年月が流
れており、軌道敷がわずかに分かる
ほど森林の荒廃が進んでおりました。

私と国有林

「森林の恵みを皆さんと一緒に楽しむ」

夢見平遊歩道を守る会 会長 築田 昇

ある時、森林に分け入った時に夢
を見ているのではと見間違えるほど
の絶景の湿地帯に出ました。そこは
一面の花園となっており、感動を覚
えたのを記憶しています。後にこの
地を夢見心地の地として『夢見平』
と名づけました。この素晴らしさを
多くの皆さんに楽しんでほしいと思
い、遊歩道を作ることを考えました。
しかし、この森林は、軌道敷がわ
ずかに分かるのみの雑木林、竹林で
あり、整備の方法を日夜考えていま
した。

この時代は、妙高高原地域では、
スキー人口が減少し、訪れるスキー
客の減少が地域の悩みとなっており、
時同じくして社会は、まさに森林浴
がブームを迎えた時でもありました。
食堂を訪れるお客さんの中には、
「火打山の高山植物の花園を見て心
身ともにリフレッシュできた」との
声をよく聞きましたし、登山ができ
ない高齢者や子どもさんは、その素
晴らしさを楽しめないでいるのを目
の当たりにしており、遊歩道造りの
思いは益々募っていきました。なんと
か出来ないか知恵を絞っていた時に

あるペンション経営者から「地域の
皆さんが集まるので話しをして欲し
い」とのお願いがあり、「ホワイト
シーズンが今までの収入源であつた
が、これからはグリーンシーズンの
お客を増やすことが地域の発展には
重要である」と話をしたのを覚えて
います。

その時に集まった約40人の皆さん
がボランティアとして協力され、関
係機関等のご理解をいただく中で平
成3年に整備に着手し、約3年の歳
月をかけて現在の4^{キロ}の遊歩道の
開設にこぎつけました。

開設当初、あるペンション経営者
が沖縄県の出身ということもあり、
沖縄からツアーを組んで遊歩道を散
策においでいただいた折、雨が降つ
ていたにもかかわらず散策された皆
さんからは「こんな素晴らしいこと
ろはない」と絶賛いただいたことが
励みになり、



遊歩道の整備作業

その後の整
備につながつ
て来ている
と思います。

この思いを
励みに遊歩
道開設以来
20年、地域
の皆さんの
ボランティア
アで、遊歩
道を整備す

ると共に新たに一日をかけて自然を
満喫し、森林浴を楽しんでいたこ
うと8^{キロ}コースも開設しました。
今では、多くの皆さんが訪れて、
森林の恵みを一緒に楽しんでいた
いておりますが、訪れた皆さんに妙
高市の魅力を堪能いただくためにコー
ス内にポイントを設けて遊歩道の絵
図を完成するスタンプラリーを始め、
絵図が完成すると、妙高の温泉で格
安にお疲れの体を癒していただく
と言う「おもてなし企画」も展開中
です。

夢見平遊歩道は、森林の恵みを最
大限楽しめるどこにも負けない遊歩
道であり続けるよう日々の整備と新
たな企画も提供しながら多くの皆さ
んから妙高の自然と一緒に楽しんで
いただきたいと会員一同日夜奮闘中
です。



ツミトンネル